

研究課題名	KRAS 遺伝子変異 G12C に対する分子標的薬剤の 耐性機序と臨床病理学的背景の探索
研究責任者名	原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究センター 腫瘍外科 教授 岡田 守人
研究期間	実施許可日 ～ 2024 年 3 月
対象者	1997 年 1 月から 2018 年 12 月の間に、広島大学病院呼吸器外科で原発性肺癌に対して手術による治療を受けられた患者さん。
意義・目的	肺癌の中には KRAS という遺伝子に通常ではみられない変化を有するタイプがある事が以前から知られていました。これまでこの遺伝子変化は治療には関係しなかったのですが、近年になり特定の薬剤が効きやすい事が判明してきています。 この薬剤はまだ臨床では使用できませんが、この研究では将来的な臨床応用を見据えて、KRAS 遺伝子に変化があっても、この薬剤が効かなくなる場合や最初から効きにくい場合はどういった背景で起こるのか調べることを目的にしています。
方法	診療録（カルテ）情報と手術で切除された標本を調査に用います。 用いる内容は年齢、性別、手術の種類、腫瘍の部位、病期、顕微鏡検査での腫瘍の特徴、検討対象となる遺伝子形態の有無です。（個人を特定可能な情報は解析に用いません） 利用または提供を開始する予定日：本学における実施許可日(2020 年 6 月 22 日)以降
共同研究機関	ありません（本研究において外部への試料・情報の提供はありません）
試料・情報の管理責任者	原爆放射線医科学研究所 放射線災害医療研究センター 腫瘍外科 教授 岡田 守人
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に試料・情報を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 T e l : 082-257-5866 広島大学病院呼吸器外科 呼吸器外科 宮田 義浩